

聖使徒行実の読み（20：16～18, 28～36）

謹みて聞くべし

彼の日、パウエルは、舟行して、エフェスを過ぎんと定めたり。アシヤに久しく留らざらん爲なり。彼、能すべくば、五旬節の日に、イエルサリムに在らんと欲したればなり。彼は、ミルトよりエフェスに人を遣して、教會の長老等を召したり。彼等が來りし時、之に謂へり、

『爾等、自ら慎み、亦、全群を慎め。乃、聖神、爾等を其中に立て、監督と爲し、主、神が己の血を以て獲たる教會を牧せしむ。蓋、我、知る。我が去りし後、残忍なる狼、群を惜まざる者は、爾等の中に入らん。爾等の中よりも、人人起りて、門徒を誘ひ、己に従はしめん爲に、理に悖る事を語らん。故に、警醒して、我が三年間、昼夜、絶えず、涙を以て、爾等、各人を誨へしを憶へ。兄弟よ、今、我、爾等を、神、及び其恩寵の言、爾等を建て、爾等に凡の聖せられし者の中に嗣業を與ふるを能する者に、託す。人の金銀、衣服は、我、未だ、之を食らざりき。爾等、自ら知る、此の我が手は、我、及び我と偕に在りし者の需に供せし、を。凡の事に於て、我、爾等に斯く勞して、柔弱者を扶け、且、主イイスの言を憶ふ可きを示せり。蓋、彼、自ら云へり、「與ふるは、受くるよりも更に福なり」と』。

言ひ竟りて、彼、膝を屈めて、衆と偕に祷れり。